広瀬川河畔地区　まちづくり調査

報　　告　　書

平成 27 年度

広瀬川河畔地区　まちづくり調査　報告書

― 目　　次 ―

１．はじめに …… 1

２．前橋市における位置づけと上位計画 …… 1
　２－１　前橋市における位置づけ …… 1
　２－２　上位計画 …… 2
　　（１）第六次総合計画改訂版 …… 3
　　（２）都市計画マスタープラン改訂版 …… 3
　　（３）市街地総合再生計画 …… 4
　　（４）中心市街地活性化基本計画 …… 5
　　（５）景観計画 …… 6
　　（６）千代田町三丁目土地区画整理事業 …… 7
　　（７）広瀬川河畔を活かした地域振興策調査 …… 8
　　（８）歴史文化活用委員会提言書 …… 9
　　（９）広瀬川テラス構想提案書 …… 10
　　（10）城東町１１地区優良建築物等整備事業 …… 11
　２－３　上位計画の整理 …… 12

３．整備方針 …… 13
　３－１　整備方針概念図 …… 13
　３－２　河畔地区ゾーンニング …… 14
　３－３　ゾーン別整備イメージ図 …… 15
　　（１）広瀬川美術館周辺「緑と芸術・創造ゾーン」 …… 15
　　（２）広瀬川交水堰周辺「河沿いのまち・エントランスゾーン」 …… 16
　　（３）文学館・朔太郎像周辺「人と芸術・ふれあいゾーン」 …… 17

1．はじめに

広瀬川は、本市のキャッチフレーズである「水と緑と詩のまち」のシンボルとして、永きにわたり多くの市民に親しまれ続けている。

一方、本市中心市街地では、人口減少や高齢化、また商店街の衰退によって、空き店舗や空き家が目立つなど、かつての賑わいは薄れている。

そのようななか、広瀬川沿川の「厩橋」から「諏訪橋」までの『広瀬川河畔地区』では、市による「千代田町三丁目地区土地区画整理事業」や「城東町 11 地区優良建築物等整備事業」と、都市の美観としての「景観形成重点地区指定」に向けた取り組みなど、基盤整備が進められているとともに、「広瀬川美術館関連事業」や「前橋文学館前のオープンカフェ開設」、及び「萩原朔太郎生家移築事業」など、市民と一体となった文化的な事業も進められているなど、行政と地域が協働した、密度の濃い施策が展開されている。

『広瀬川河畔地区』を対象とした本書では、これら施策の相互連携と相乗効果が図られるよう、その整合性と妥当性を検証し、当該地区を中核とした交流人口の増加と、まちなかの賑わい再生に向け、今後の整備方針を整理するものである。

2．前橋市における位置づけと上位計画

2-1　前橋市における位置づけ

あらためるまでもなく、これまでに策定されている本市の各上位計画のすべてにおいて、中心市街地にある本地区は、極めて重要な位置づけと、先導的な整備方針が述べられている。

しかしながら、これまでは行政サイドの施策に重きが置かれ、定住人口の増加やまちのにぎわいに対する市民サイドの動きを活性化させることには不十分であった。

今後は、行政がベースとなって地域の基盤を支えつつ、まちなかの本質的な賑わいは地域が主体的に担えるよう、その位置づけと方向性が明確に認識される施策の立案が必要と思われる。

2-2　上位計画

『広瀬川河畔地区』に関する、上位計画について、行政サイドから市民サイドにわたる位置づけを整理する。

	名　　称	行政サイド	民間サイド
1	第六次総合計画改訂版（H25/3）		
2	都市計画マスタープラン改訂版（H27/3）		
3	市街地総合再生計画（H27/5）		
4	中心市街地活性化基本計画（H26/3）		
5	景観計画（H21/10）		
	広瀬川景観形成重点地区（予定）		
6	千代田町三丁目地区土地区画整理事業（H23/11）		
7	広瀬川河畔を活かした地域振興策調査（H18/3）		
8	歴史文化遺産活用委員会提言書（H26）		
9	広瀬川テラス構想提案書（H26/5）		
10	城東町 11 地区優良建築物等整備事業（H27）		

上図から読み取れるように、かつては行政主導であったまちづくりの立案主体が、近年では、その軸足を市民サイドへシフトしてきており、自分たちの地域に対する思い入れや、個性を活かした住民主導のまちづくりが推進されている。

（１）第六次総合計画改訂版

●計画の要旨（p.16・p.48～）

〇将来都市像のスローガン『生命都市　いきいき前橋』

〇施策の大綱

- 快適で暮らしやすいまちづくり（暮らしの基盤・安全安心）
- 恵み豊かな自然と共生するまちづくり（環境共生）
- 個々が光り輝くまちづくり（健康・福祉）
- 地域資源を活かした活力あるまちづくり（産業活力）
- 豊かな心を育むまちづくり（教育・文化）
- 市民協働のまちづくり（協働・行政経営）

●広瀬川河畔地区の位置づけ（p.44）

- 広瀬川河畔地区の情緒あふれる風土と、萩原朔太郎を中心とする詩情豊かな地域性を「前橋文化」として積極的に発信することが求められる。
- 地域資源を活かしつつ、「水と緑の整備・保全の方針」の明確化が必要である。

（2）都市計画マスタープラン改訂版

●計画の要旨（p.23）

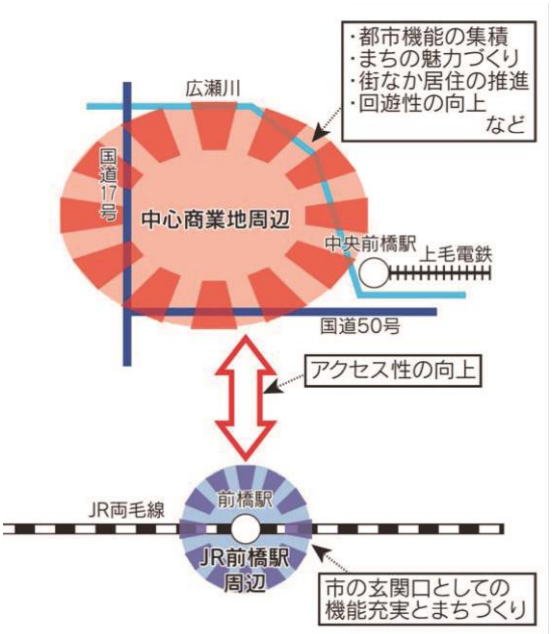
〇第六次総合計画改訂版の将来都市像を踏襲する。

〇都市づくりの理念

- 多様な都市機能の備わった、にぎわいのある市街地環境づくり
- 豊かな自然と地域特性を活かした、潤いと安らぎのある居住環境づくり

●広瀬川河畔地区の位置づけ（p.59・p.74）

- 市街地内を流れる広瀬川やケヤキ並木などの、まちの顔となる水と緑を保全する。
- 広瀬川河畔地区は、沿川の街路整備と合わせて、市街地の中にありながら、水と緑が豊かな景観形成に配慮したまちづくりを促進する。



（3）市街地総合再生計画

●計画の要旨（p.14）

〇メインテーマ　『多様で魅力ある市民生活共生環境と新たな交流環境の創造』

〇サブテーマ

・いつまでも住み続けられるまち

・新しい価値観を見出せるまち

・誇りと愛着を持てるまち

●広瀬川河畔地区の位置づけ（p.29・p.47）

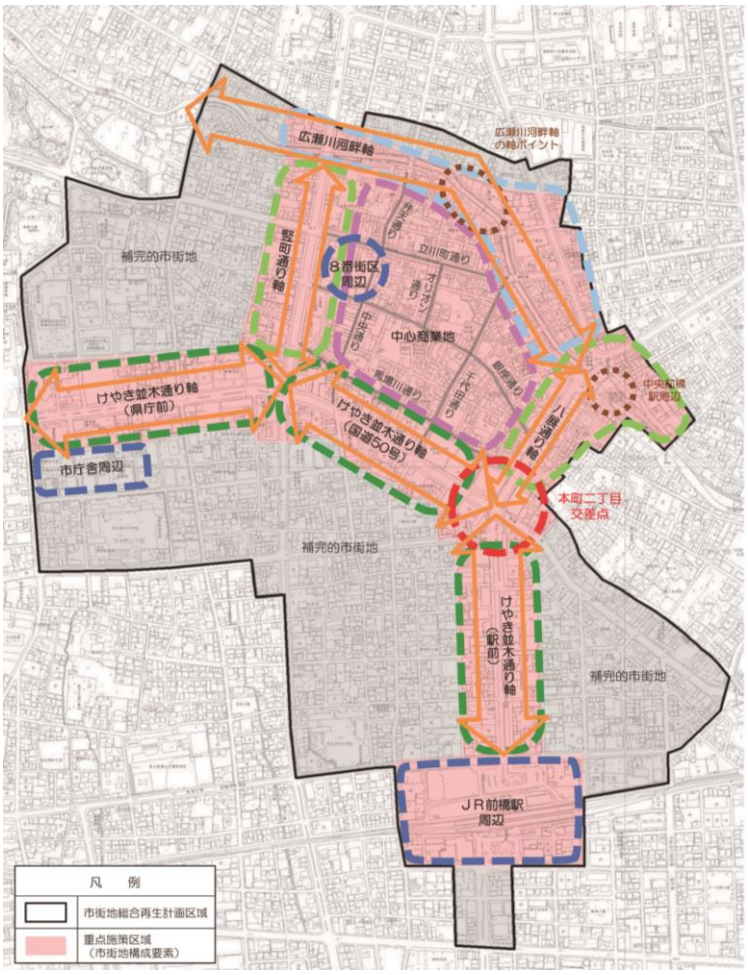
・広瀬川とその沿川を「都市景観形成軸」に位置付け、「詩情豊かで、落ち着いた雰囲気の中で交流できるゾーン」として、以下の地区整備方針を策定する。

①河畔環境と調和する都市景観の形成

②低未利用地等の活用による都市機能の更新

③新たな魅力ある都市空間の創出

・【自然・文化・歴史の保全と活用】について、前橋文学館と広瀬川美術館の文化芸術活動の重要性を示している。



（4）中心市街地活性化基本計画

●計画の要旨（p.3～p.4）

〇空き店舗の常態化や、中心市商業地における商品販売額と歩行者通行量の減少に対処すべく、各種実施主体の施策が連携し、総合的な成果を目指す。

〇中心市街地とは、第六次総合計画改訂版の「中心的機能空間」と都市計画マスタープラン改訂版の「都心核」の位置づけを踏襲する。

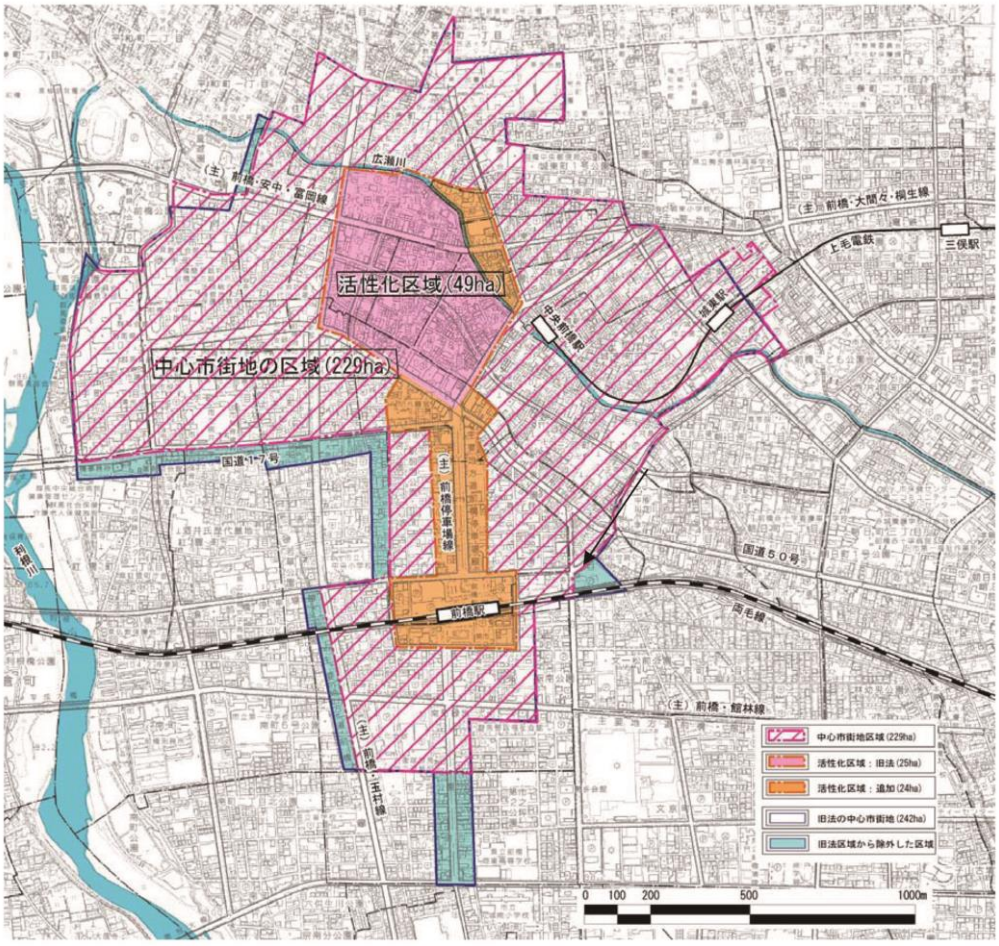
●広瀬川河畔地区の位置づけ（p.5・p.37・p.41）

・広瀬川の北側市街地（広瀬川左岸）には、商業業務施設のほか、市営駐車場も立地しており、沿川河畔緑地の整備構想が策定されていることから、活性化区域に編入する。

・「千代田町三丁目土地区画整理事業」を推進することにより、居住環境整備や広瀬川河畔整備と連動した街並み整備を推進する。

・街なか居住機能に、医療・福祉・子育て支援・教育文化・商業等の都市機能を併せた「優良建築物等整備事業」を推進することにより、多様な世代が住みやすいと感じるまちを創出する。

・アーツ前橋を核とした芸術文化活動を推進することにより、前橋文学館や広瀬川美術館まで巻き込んだ、アートによる中心市街地活性化施策を展開する。



（5）景観計画

●計画の要旨（p.4）

〇本市の良好な景観形成を推進するため、「市民」「事業者」「市」の三者が景観形成の主体であることを自覚し、協働して行動することが重要であることをあらわす。

〇メインテーマ

『振り返りたくなる風景がある』

※「広瀬川景観形成重点地区」

⇒広瀬川を前橋市景観計画における「景観形成重点地区」として指定することを目指している。

●広瀬川河畔地区の位置づけ（p.20）

・広瀬川や沿川のケヤキ並木は、中心市街地や住宅地に静寂と四季と清らかな風をもたらすものであり、積極的にこれを活かす。

・沿川での、若者や有志によるイベント、アート系の活動などが、中心市街地の景観づくりにも影響を与えるよう、その取組みをより活発化させていく。

（６）千代田町三丁目地区土地区画整理事業

●計画の要旨（p.2）

〇中心市街地の著しい衰退と人口減少が進む中、街区の再編と区画道路を再整備することにより、定住人口の増加が見込める宅地の利用増進と、安全安心で快適に暮らせる都市基盤の再構築を目指す。

●施行地区「広瀬川河畔地区」の位置づけ（p.2）

・広瀬川河畔緑地との調和を目指し、にぎわいの中にも品位を備えた、交流性の高い都市空間の創出を図る。

（7）広瀬川河畔を活かした地域振興策調査

●計画の要旨（はじめに・p.25）

〇広瀬川河畔を市民及び来街者がにぎわい、交流しやすい水辺空間となるよう、河畔緑地の再整備とあわせた、「親水機能の向上」「交流広場の整備」「広場運用体制の構築」を進める。さらには、都市周遊ネットワークの整備構想や、県内外への情報発信高めることによる都市全体のイメージアップを図る。

〇メインテーマ

『広瀬川再発見！出会い・ふれあい・学びあい』

〇サブテーマ

- 広瀬川河畔の環境を活かした地域の顔づくり
- 人々が集う魅力ある交流空間づくり
- 街中で環境と文化を学び波及させる拠点づくり
- 誰もが気軽に立ち寄りたくなるような場、雰囲気づくり
- 活性化に寄与する持続性のあるしかけづくり

●広瀬川河畔地区の位置づけ（p.38・p.63）

- 沿川の市道を一部廃道、または歩行者専用道路化し、河畔緑道との一体的整備を行う。
- ケヤキ並木の適宜伐採により、広瀬川への眺望と開放感を創出する。
- 市民参加による、ハードとソフト両面の環境学習を行い、来街者の誘致も目指す。
- まちなかの周遊に資する拠点、空間の形成方針として、前橋文学館と広瀬川美術館を「文化施設、さらなる連携・活用とリニューアル」スポットとしている。
- 交水堰上流付近の右岸は、河と市街地が融合する「エントラスゾーン」として位置付ける。

にぎわいと交流のイメージ

（8）歴史文化遺産活用委員会提言書

●計画の要旨（p.4・p.5）

〇人口減少が進む現代において、これまでの経済優先主義社会を見直し、都市を固有の文化力によって再生すべきと考える。

〇文化の役割について

①人々の生活を充実させる営み

②地域づくりや地域経済の活性化の推進力

〇本書からの提言

①前橋市を象徴する歴史空間の創造

②歴史文化遺産を核とする都市交流

●広瀬川河畔地区の位置づけ（p.8）

・前橋駅前から前橋文学館前までを「朔太郎・文学ゾーン」として設定。

・朔太郎記念館を前橋文学館付近に移築し、「詩のまち・前橋」発信のシンボルとして位置付ける。

（9）広瀬川テラス構想提案書

●計画の要旨（挨拶）

○歴史・文化的な香り漂う落ち着いた場所、お年寄りが触れ合いを楽しめる場所、大人が通うお洒落な場所、若者が集い賑う場所、子供が無邪気に遊べる場所・・。
どんな年代・シーンにも対応できる「広瀬川河畔」を目指す。

●広瀬川河畔地区の位置づけ（p.2・p.3）

○アーティストストリート「厩橋～比刀根橋」
・文化、芸術を感じられる場所
・広瀬川美術館を核として、芸術や音楽などの文化に触れあえるゾーン

○スタイリッシュストリート「比刀根橋～諏訪橋」
・広瀬川河畔のシンボルゾーン
・前橋文学館や朔太郎像周辺と城東公園を一つのステージとして、様々なエンターテイメントを仕掛け、既存店舗から派生した常設型のオープンカフェや、お洒落な雑貨やファッション関係の新規出店を仕掛ける。

○具体的な仕掛け案
①前橋文学館への店舗誘致　②萩原朔太郎生家の移築　③河畔沿い整備と車輌通行制限
④広瀬川ブランドの創作　⑤広瀬川美術館と連携したソフト・ハード施策の展開。

（10）城東町 11 地区優良建築物等整備事業

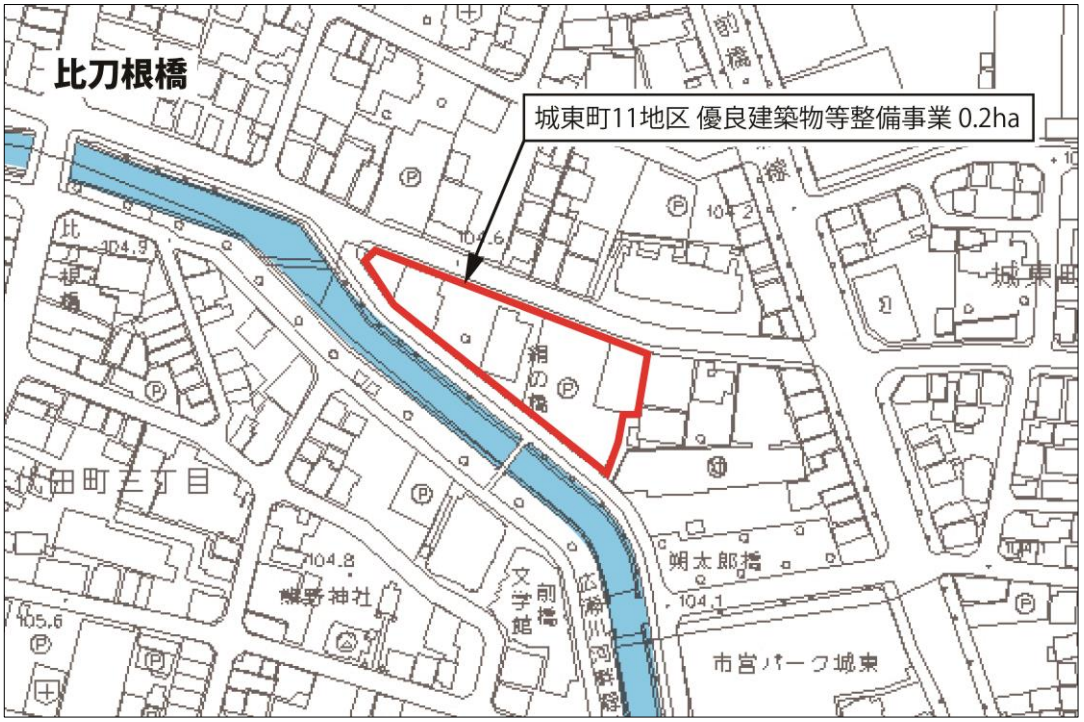
●計画の要旨（事業の目的）

〇本事業は、老朽化した住宅が散在する当該エリアに対して、土地の有効活用を図り、街なか居住の推進、また広瀬川の景観を活かした商業ゾーンを設置することによる賑わいの創出などを目的として、共同住宅（一部商業）の建設を図るものである。

〇敷地には、多くの空地や広場を設け、１階の商業施設の誘因効果と相まって、市民が水辺の空間を満喫できる憩いの空間を創出し、地域の活性化への貢献や、今後の開発モデルとなりうる高質な建築物であることを目指す。

●広瀬川河畔地区の位置づけ（計画方針）

・広瀬川左岸に接する本事業周辺には、街なか居住にふさわしい高質な空間を創出しする。
・中心市街地の利便性、また河畔緑地の景観形成の重要要素となり、市民の憩いの場ともなるオープンスペースの整備を図る。



2-3　上位計画の整理

各上位計画において位置づけられている、広瀬川河畔地区のコンセプトと具体的な整備方針は以下のとおりである。

	上　位　計　画　名	河　畔　地　区　コ　ン　セ　プ　ト	具　体　的　な　整　備　方　針　等
1	第六次総合計画改訂版	・朔太郎を中心とする詩情豊かな地域性。	
2	都市計画マスタープラン改訂版	・水と緑豊かな景観形成。	
3	市街地総合再生計画	・都市景観軸。	・低未利用地の活用を図る。 ・新たな魅力ある都市空間の創出。 ・前橋文学館と広瀬川美術館の文化活動を推進する。
4	中心市街地活性化基本計画	・沿川河畔緑地の整備構想策定。	・千代田町三丁目土地区画整理事業の推進。 ・優良建築物等整備事業を推進し、多様な世代が住みやすいまちをつくる。 ・アーツ前橋を核とした芸術文化活動を推進し、前橋文学館と広瀬川美術館までを巻き込むアートによる中心市街地の活性化。
5	景観計画	・振り返りたくなる風景がある。 ・市街地の中に静寂と四季と清らかな風。	・広瀬川景観形成重点地区の指定。 ・沿川での若者や有志のイベント、アート系の活動が中心市街地の景観づくりに好影響となるように仕掛ける。
6	千代田町三丁目土地区画整理事業	・定住人口の増加と安全安心な都市基盤再構築。	・にぎわいの中にも品位を備えた、交流性の高い都市空間の創出。
7	広瀬川河畔を活かした地域振興策調査	・広瀬川再発見！出会い・ふれあい・学びあい。 ・広瀬川河畔の環境を活かした地域の顔づくり。	・市民参加によるハードソフト両面の環境学習と来街者の誘致。 ・前橋文学館と広瀬川美術館を「文化施設、さらなる連携・活用とリニューアル」スポットとして位置付ける。 ・広瀬川と市街地を融合する「エントランス空間」を位置づけ、河畔でくつろげる休憩スペースを整備する。
8	歴史文化遺産活用委員会提言書	・前橋市を象徴とする歴史空間の創造。 ・歴史的文化遺産を核とする都市交流。	・前橋駅から前橋文学館までを「朔太郎・文学ゾーン」とする。 ・朔太郎記念館を前橋文学館付近に移築し、「詩のまち・前橋」のシンボルにする。
9	広瀬川テラス構想提案書	・どんな世代、シーンにも対応できる 「広瀬川河畔」を目指す！	・前橋文学館、朔太郎像周辺でのエンターテイメントの仕掛けやオープンカフェなど。 ・萩原朔太郎生家（記念館）の移築を図る。 ・広瀬川美術館と連携したソフトハード整備を進める。
10	城東町１１地区優良建築物等整備事業	・老朽化し、不活性化した住宅地での開発モデル。	・街なか居住にふさわしい高質な建物と空間の創出。 ・広瀬川河畔地区の景観要素となりうるオープンスペースの整備。

●コンセプトのグループ分け
- 緑豊かな地域性の重視
- 広瀬川と河畔を活かした人とのふれあい
- 沿川土地利用の合理化と定住人口増加

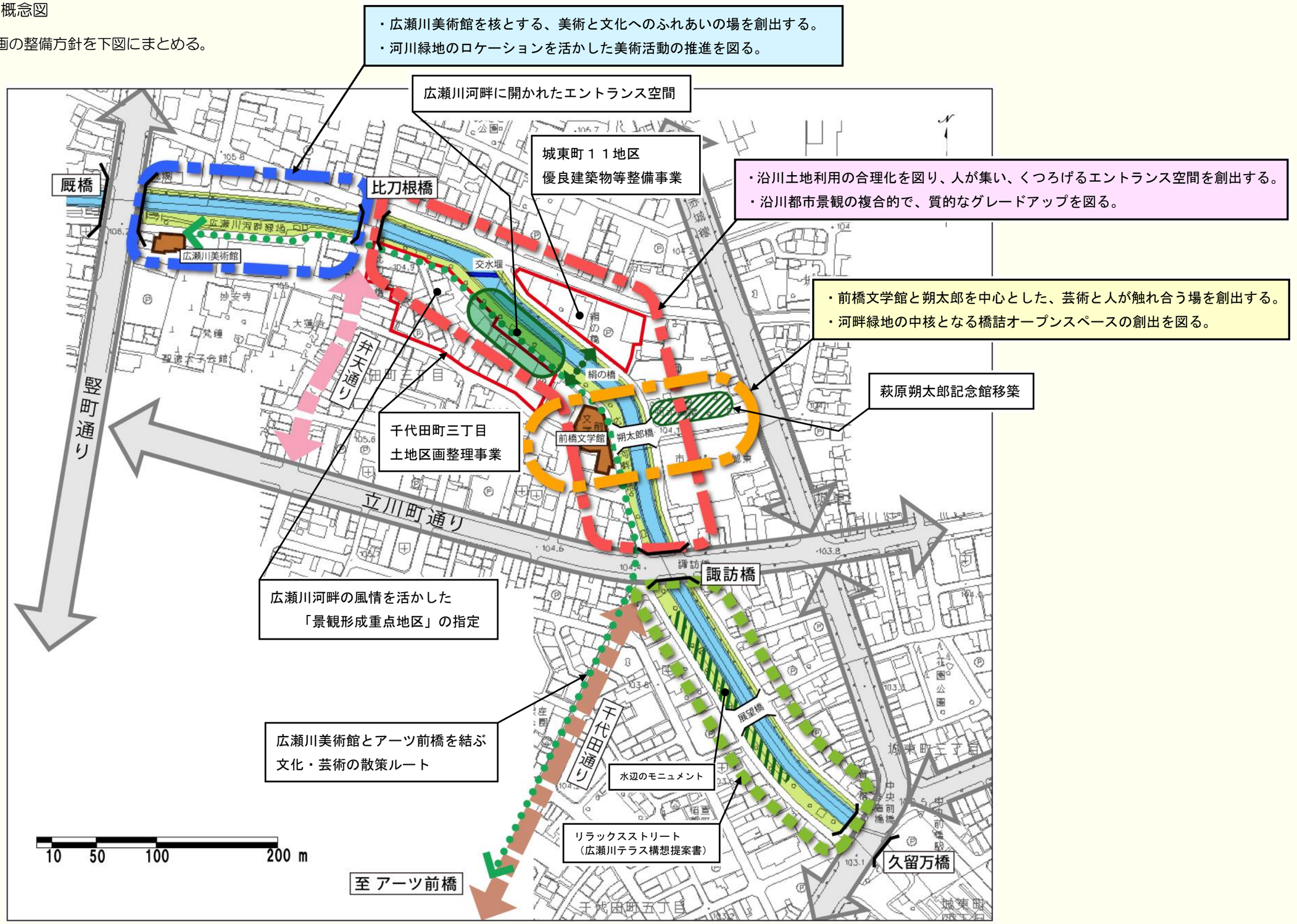
→

●河川沿いの景観形成と「朔太郎」をモチーフとした、文化的なコミュニティー形成
●土地利用合理化とシンボル建築物の整備による地域的なグレードアップ

3. 整備方針

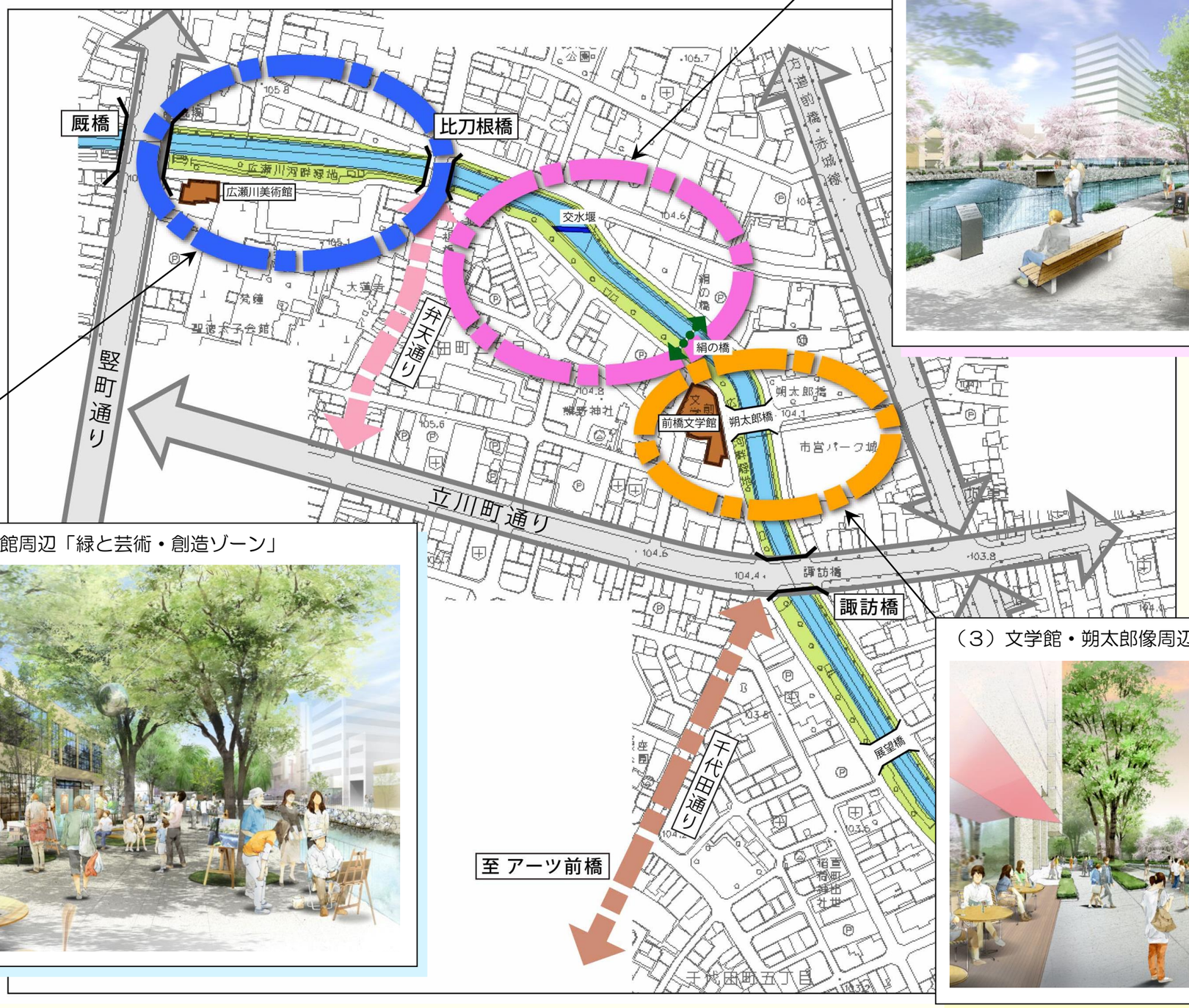
3-1　整備方針概念図

上位計画の整備方針を下図にまとめる。



3-2　河畔地区ゾーニング

厩橋から久留万橋までの広瀬川河畔地区を下図のようにゾーン区分し、それぞれの整備イメージを示す。



（１）広瀬川美術館周辺「緑と芸術・創造ゾーン」

（２）広瀬川交水堰周辺「河沿いのまち・エントランスゾーン」

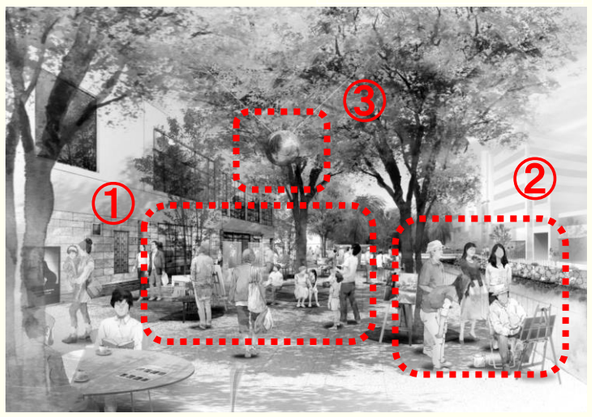
（３）文学館・朔太郎像周辺「人と芸術・ふれあいゾーン」

3-3　ゾーン別整備イメージ図

（1）広瀬川美術館周辺「緑と芸術・創造ゾーン」

緑と芸術・創造ゾーン　のイメージ

イメージのポイント



①絵画やアートの屋外ギャラリー展示のようす。

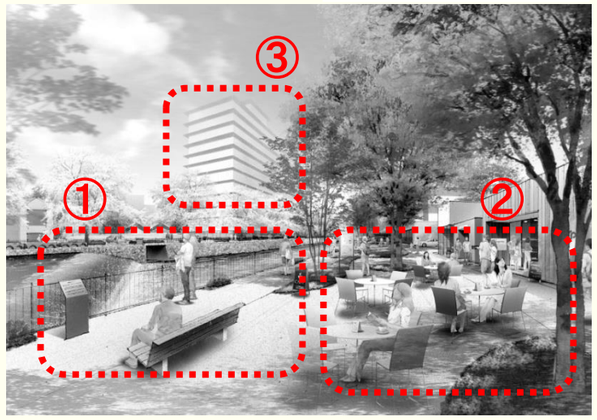
②市民の文化活動（絵画教室など）のようす。

③若い才能の煌めきと可能性を表すオブジェ。

（２）広瀬川交水堰周辺「河沿いのまち・エントランスゾーン」

河沿いのまち・エントランスゾーン　のイメージ

イメージのポイント



①広瀬川河畔に開かれたエントランス景観。

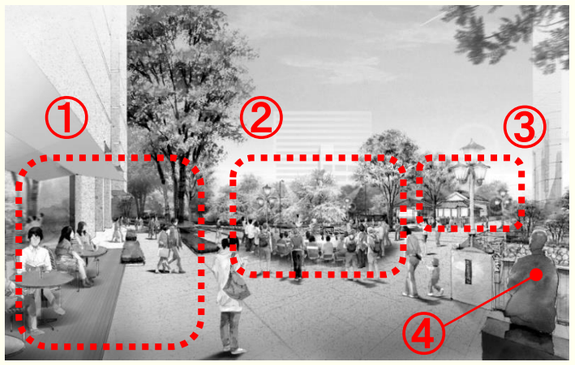
②人々が集い、憩う、河沿いのお店と一体化した空間。

③沿川都市景観の先導的なシンボルとなりうる、
良質なデザインを備えた複合高層建築物。

（３）文学館・朔太郎像周辺「人と芸術・ふれあいゾーン」

人と芸術・ふれあいゾーン　のイメージ

イメージのポイント



①空間的な一体感を創出する、川に向いたオープンスペース。
　（オープンカフェなど）

②芸術、音楽、人がふれあう、橋詰のオープンスペース。

③萩原朔太郎記念館の移築。

④今の賑わいを眺める、萩原朔太郎像のイメージ。